

あかさき

北九州市立赤崎小学校
校長 田村嘉浩

学校教育目標 「 豊かな心を持ち 自ら学び 健康でたくましく生きる児童の育成 」

- あいさつをする子ども
- かんがえる子ども
- さいごまでがんばる子ども
- きまりを守る子ども

黙 禱

東日本大震災において犠牲となられた方々へ、全校で追悼の誠を捧げました。

本日、午後2時46分、8年前の震災発生時刻に合わせ、全校で黙禱を捧げました。

各担任から趣旨を説明し、私の全校放送を合図に行いました。一人一人の小さな胸で「命」について考える、大切な機会になったと思います。あの時、赴任校の職員室のテレビで次々と流れるニュース映像を、ただ、呆然と見ていた自分を思い出します。今日は、震災時、学校現場でどんなことが起こるのか、今、私たちにできることは何か、深く考えさせられた一日でした。

下に、福島県で、私と同じく理科学習の研究をしていた仲間の体験を、ご紹介します。担任として子どもに合わせた体験を、教師仲間にもメール発信した内容です。

「生きていて、よかったね。」

「ご心配おかけしました。インターネットがやっと今日復活しました。浮金小学校、児童、教員、全員無事です。あの3月11日のことを思い出すといろいろな思いが胸をよぎります。

校舎は、その後、危険建築物に認定され、子どもたちはもう教室に戻ることはできません。校舎を支える柱、6本にクラックが入りました。1年生の女性の先生は、子どもたち2名を抱え、床に落下したテレビの横で泣いていました。職員室のあの大きな耐火金庫が10cmも動いていました。研究授業で使った桜の木のあった地面は、10cmも地盤沈下をし、体育館に入るのに新しい階段が一段できていました。体育館内では、水銀灯が落下していました。あと、5分、地震が遅ければ、子どもたちが体育館で活動していたので、無人の体育館での落下に、胸をなでおろしました。

私は、あの永遠とも思える地震の間、教室で子どもたちに『机から体を出すな！』『声を出すな！』『もうすぐおさまるから安心しろ！』『絶対、泣くな！泣き声を出すな！』『地震なんかには負けるな！』『もうすぐ終わる！』『消防署での地震体験を思い出せ！』『机の脚を押さえろ！』と叫んでいました。子どもたちは、私の指示にずっと従ってくれました。この子どもたちを守らなければならない、と思いながらも、子どもたちを励ます言葉を発することしかできませんでした。

『消防署での地震体験』とは、郡山消防署へ見学に行ったときに、起震車で震度7を体験した時のことです。私の学級の子もだけは、泣いていませんでしたが、地震後に、『ぼくたちは、地震体験をしていたからね』と胸を張る子どもがいました。そして、地震の次の日、あるお母さんから『子どもを守ってくださってありがとうございます。』とお礼を言われました。その子は、家に帰ってからこんなふうにしたそうです。『ぼくは、学校の先生になれないかもしれない。だって、地震の時、先生は、自分は机の下にもぐらないでみんなをあんなに励ませるなんて、そんな勇気、ぼくにはないなあ。』教師として当たり前のことをしただけなのに、そんなふうに感じてくれる子どもがいて、心が温かくなりました。

今は、原発事故のために、卒業式も予定通りにできるかどうかわかりません。原発から30数キロです。屋内退避命令区域の、わずかに数キロ外です。子どもたちも数人は遠くに避難しました。学校にいつ戻れるか、みんなの笑顔がいつ教室を包むか、わからない状況です。原発を守るために死と隣り合わせで働いている人々の安全を願いながらも、家族の安全をはかるために、自分も避難をしなければならないのか、悩むこともあります。……今は、一人の教師としてこの地震や原発事故をどのように子どもたちに伝えればよいかわかりません。どうすれば、明るい未来を子どもたちが抱くことができるかわかりませんが、とにかく、今、この言葉だけは、子どもたちに胸を張って言えます。『生きていて、よかったね。』…」

この子ども達は、もうすぐ成人式を迎えます。式に参列し、笑顔で友達と再会できることを心から願います。

私たち教職員は、もし、この赤崎小で同じことが起こったら、この先生と同じような勇気をもって、全力を尽くします。